一 般 質 問 通 告

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第 62 条第2項の規定により通告します。

令和5年11月24日　　議席番号　22 番
東村山市議会議長 あて　　質 問 者 かみまち 弓子

記

1. 子どもの利益を最優先に

(1)「放課後児童クラブの長期休業に昼食提供」のその後について

私が令和 5 年 9 月議会で一般質問した「放課後児童クラブの長期休業に昼食提供」について HP に令和 5 年 10 月 10 日(火)に開催された第 12 回 東村山市児童クラブ運営等に関する代表者協議の議事録が掲載されている。その内容について以下、伺う。

① 「児童クラブにおける食事提供について」の協議等概要を伺う。

② 「今後とも代表者協議を通じて継続して協議等を行うテーマとして論点のイメージについて確認した。」とあるが、令和６年度の夏休みに実施すると想定した場合、かなり急がないといけないのではないかと考える。スケジュールを伺う。

③ 「市は学保連の代表として組織の総意を伝えられる代表者の選定を依頼のうえこれを了承した。」とは、どういった意味か伺う。

④ 学童長期休みの昼食をスクールランチを使って実施することについて見解を伺う。

(2)企業版ふるさと納税について

プレスリリースで、「市では、民間事業者が主体となり東村山市内において行う地域創生推進事業に対し企業版ふるさと納税を活用した補助制度を令和 5 年度からスタートさせました。今般、第１回目の地域創生推進事業として２事業を認定いたしました。」とある。その中に私が何度も一般質問で政策提案してきた「ICT を活用した児童の見守り事業(株式会社 otta)」が入っている。今後の流れについて以下、伺う。

① 「今後の流れとしましては、認定された事業者は、自らの事業が東村山市の地域創生に寄与することを PR し、東村山 市外の企業に企業版ふるさと納税を募っていただくことになります。」とのことだが、どのようなことを想定しているのか伺う。

② 【三者それぞれのメリット】として「1.認定された事業者は、事業継続性と PR 効果の向上」とあるがどのようなことか伺う。
③ 【三者それぞれのメリット】として「2.寄附者は税制上の優遇と CSR・CSV の推進」とあるがどのようなことか伺う。
④ 【三者それぞれのメリット】として「3.東村山市は市民サービスの向上・地域創生事業の推進」とあるがどのようなことか伺う。
⑤ 企業版ふるさと納税されたものは、ICT を活用した児童の見守り事業にどのように役立てるのか伺う。
⑥ 今回は児童の見守り事業だが、高齢者の見守りに関しては入らないのか伺う。
⑦ 5 年11月23日現在市のHP企業版ふるさと納税が観られなかったが、その理由と対策を伺う。

（3）早朝の小学校で校庭開放・預かりについて

「共働き家庭の増加で、朝の子どもの居場所づくりが課題となっている。登校時間より早く保護者が出勤する家庭では、短い時間でも子どもが 1 人になってしまうからだ。そんな子どもたちのため、朝の校庭開放などの取り組みが広がりつつある。」（2023 年 11 月 22 日朝日デジタル）との報道があった。当市でも子どもの利益を最優先に考え実施すべきと考え、以下、伺う。

① 「共働き家庭の増加で、朝の子どもの居場所づくりが課題となっている。」とのことだが、当市ではどのような課題があるととらえているか、また、現状はどのように対応しているか伺う。
② 記事では、「東京都八王子市の市立由井第一小学校」や「三鷹市では全校で 1 時間前から開放」とあるが、多摩地区の動向についてどのような調査・研究をしているのか伺う。
③ 当市でも「共働き家庭が多く、朝の子どもの居場所に関するニーズが高い」と感じ実施するべきと考える。ニーズの調査や実施にむけての課題は何か見解を伺う。
④ 教育長の見解を伺う。

2. パワーナップ（昼寝）で集中力向上を

「パワーナップ」とは、短時間で効率的に疲労を回復させる昼寝のこと。昼寝やうたたねを意味する英語の「nap」と、「power up」を掛け合せた造語で、アメリカの社会心理学者ジェームス・マース氏が 1998 年に提唱して以来、世界的な広がりを見せているという。

パワーナップを取り入れると① 仕事の能率が上がる② 脳のクリエイティビティが上がる③ 前日の疲れが解消される④ ストレスが減る⑤ 健康になるなど主に 5 つの効果が期待できるそうである。ぜひ、当市でも取り入れてはどうかと考え以下、伺う。

（1）東村山市内の企業業績アップのため商工会と連携して「パワーナップ」を推進してはどうか。見解を伺う。
（2）市内企業の「パワーナップ」推進のために東村山市役所職員が率先してはどうか。見解を伺う。
（3）文部科学省では、小・中・高校生を対象として、睡眠を中心とした生活習慣と自立や心身の不調等との関係性について明らかにするため、初の 2 万人規模による全国的な調査を実施した。「睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査の結果」についてどのように分析しているか伺う。
（4）東村山市内の小・中学生を対象とした「睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査」を行ったことはあるのか。あれば、その調査結果を伺う。
（5）教育現場からは、「睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性」についてどのような声があがっているか伺う。
（6）「親と子の心の対話　家庭教育の手引書　小学校編」では、「特に、早寝・早起きと同時にきちんと朝食を食べることは生活習慣の基本です。」
「中学校編」では、「睡眠不足は脳や体の疲れがとれず、翌日の学習への「やる気」や「集中力」をうばいます。心身共に大きく成長するこの時期は、メディアに流されない生活リズムがとても重要です。 」とある。これを家庭で実現するために本市では、どのようなことを行っているのか伺う。
（7）厚生労働省は心身の健康づくりのための新たな「睡眠指針 2023」（仮称）案を 10 月初めに公表しました。 例えば「小学生は 9～12 時間」など、年代別に適切な睡眠時間を確保することを推奨し、質の高い睡眠のために心掛けるべき注意点を細かく示している。小・中学生に睡眠授業を行うこともおおきな効果があるのではないか。本市の小・中学生にどのような睡眠授業を実施しているのか伺う。
（8）（6）（7）からも小・中学生に「パワーナップ」を導入すれば給食後の授業の集中力が増すのではないかと考えるが、見解を伺う。